

# ほとけの 混和会だより

令和六年十二月

東光院  
東大寺

第175号



梅原猛様の書籍より

## 仏になろう

十二月八日はインドの釈迦国の王子様が三五歳にして悟りを得て「ブツダ」に成られた日です。「ブツダ」とは大自然の真理に目覚めた人と言う意味で一切の迷いを超越し、大いなる慈悲の御心を抱いた尊い人と言う意味です。

このブツダと言う言葉を漢字で「仏陀」と記し仏陀の仏だけを取って私達は仏様と言っております。梅原猛さんは、この度の

タイトルの如く私達もこの世に於いて釈迦国の王子様の如く仏になろうと言っておられました。いわゆる「成仏」と言うことで有ります。

「成仏」と言うとは死後の世界で仏に成ると思われて居る人が大半かと思えます。そして世間では、故人に対して

「迷わず成仏して下さい」と念じます。よって成仏と言う解釈がゆがめられてしまいました。

「成仏」とは、この世に於いて私達の歩む方向性を示し、そして生きる事の確かな価値観を見いだすもので有ります。

私達の社会に於いては、それぞれ生きる環境や立場に於いて多種多様、様々な価値観を抱く人々が生活しております。

そして知らず知らずの内に己の於かれた環境や世間の価値観に染められて、名声や

私欲の追求を求め人に勝つ事を目的に生きて行きます。

しかし欲望を追求する世間の価値観に染められた私達は、眞の自己と言うものを見失って迷いの境地をさまよってしまいます。

「私はなんの為に生きて居るのだろうか」

「どこに向かつて生きて行ったら良いのだろうか」

「眞の幸とか、安心と言うものはどこに有るのだろうか」  
などと己の迷いが苦しみを招いてしまいます。

そこで私達もこの世に於いて「成仏」仏に成ると言うことを生きる事の指針として、そして支えと成るよう努めて見るのです。

仏に成ると言うことは、仏様の御心をまねて仏心を得し、自ら仏様のような行いをすると言うことです。

しかし仏様の境地はあまりにも深遠でなかなか到達は出来ませんが、仏様の御心を拝み自ら仏様のように生きて居れば少しずつでも

仏様の境地に近づいて行くことが出来ます。

このように仏様の御心を会得しようとして悟りを求める人を菩薩と言っております。

菩薩と言うと観世音菩薩とか地藏菩薩を思い描きますが、私達もこの世で仏様の御心をまねて生きて居れば人々から敬われる尊い菩薩と成ります。

それでは、どのように仏様の御心をまねたら良いかと言うと比叡山を開かれた最澄様は「己を忘れて他を利用するは慈悲の極み也」と言い

このような心を抱いた人を「西には菩薩と称し、東には君子と号す」と言っております。

ようするに、人々の幸を願い、人々の幸を喜びと成るよう

勤めるのです。共に幸せに成って欲しいと願う人々が身近に居てくれるだけで、己自身も

生きる事の希望と喜びに満ちて、生きる事の意義も、安心も

抱ける環境が築けて参ります。

共に仏と成れるよう歩んで参りたいと存じます。

亮観拝





日本仏教に登場する  
 仏様を毎号少しづつご  
 紹介。前号に続き今回  
 は東大寺とご縁の有る皆  
 様にも知って貰えたらと  
 東光院をご紹介します。

●**醫王山東林寺東光院**  
 創建は九八六年(平安時  
 代)花山天皇が出家され  
 た年に比叡山の僧侶、恵  
 心僧都源信という人によ  
 って創建されました。

源信という僧侶は疫病・  
 震災・戦等で町に死者が  
 耐えず、地獄の苦しみが  
 続いた時代に人々を救わ  
 んと活躍された僧侶で  
 す。特に来世において極  
 楽浄土に往生する為につ  
 いてまとめた書物「往生要  
 集」は町民から貴族まで  
 大勢に指示されました。

平安時代に建てられた  
 東光院ですが、一六六二  
 年(江戸時代)に大修繕  
 を行うも一八五〇年に焼  
 失。

後の一八七三年頃には  
 地元小学校を創建する  
 為、校舎が建つまでの仮  
 校舎として使われていた  
 時期もありました。  
 現在の東大寺前住職、木内五

堯瑞師のご尽力をもって  
 建てられた物です。

東光院の本尊は恵心僧  
 都源信作と伝えられる  
 薬師如来でしたが、歴史  
 の波に揉まれ焼失。現在  
 の本尊は製作者不明の  
 阿弥陀如来立像を祀っ  
 ております。

以前、仏像修復の先生  
 に見て貰った所、様々な  
 特徴から「平安時代の作  
 では無いか?」と言われ  
 ました。

阿弥陀如来は極楽浄土  
 を造られた仏様です。平  
 安時代に造られたとす  
 るなら、極楽浄土につ  
 てまとめられた恵心僧  
 都源信と縁があるのでは  
 ないかと思いを巡らせる  
 ことも出来ます。

実はこちらの阿弥陀如  
 来像は長年東光院の秘  
 仏として安置されてい  
 った様で、本堂落慶を機  
 に修復し本尊としてお奉  
 りしました。

東光院へも  
 是非お参り  
 ください。



本堂→  
 ←薬師堂



布施の心



令和六年十一月十八日

大森の山田政尚さんご自身が  
 育てた菊をお供え頂きました。

政尚さんはなんと九十五歳の  
 お年でありながらも丹精込めて  
 菊を育てておられるとのこと  
 でした。この政尚さんの行為を  
 私達は布施と言っております。

布施とは慈悲の御心を持って  
 仏様や他人に施すことで無償  
 の愛です。私達がこの世に安心  
 に満たされた環境を築く上に  
 於いて最も尊い行いで有りま  
 す。布施の「布」は分け隔て無く  
 と言う意味で「施」は与えるとい  
 う意味です。

昨今の、不安に満ちた孤独社  
 会に於いて、この布施の心は  
 温かく大きな安心が抱けます。  
 とても尊い事と存じます。  
 「有り難う御座いました。」合掌

自然と私達、そして人と人  
 共に生きて、共に生かされ  
 共に活きる。

天台宗では、『生命』『奉仕』  
 『共生』と言う活動の指針とす  
 る言葉が掲げられております。  
 『生命』とは大自然の営みの中  
 様々な命を頂いて生かされて居  
 る私達、この命を敬い生きる事  
 の意義を見いだすと言うこと  
 です。『奉仕』とは、身を持って慈  
 悲の御心を施す行いです。

その功德によって『共生』と言  
 う共に生きる環境が築けて参り  
 ます。よって九月十日(日曜)  
 檀信徒の皆様と共に蕎麦の栽  
 培から収穫まで皆様のご奉仕に  
 よって行われました。



ご奉仕有り難う御座いました